



# みつぎ便り

第200号 5月号 令和5年5月1日発行 [http://itbs-ecopo.jp/environsurvey\\_report](http://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report)

板橋区役所南部土木サービスセンターの花づくりグループとエコボリスセンターのかんきょう観察員地域自主活動グループに所属しているボランティア団体「見次の会」です

## ヒメヒオウギ

おかげさまで見次だよりも二百号となりました。ところで昨年(2023年)の五月の中旬に、公園のバス通り正面入り口を入れて直ぐ右の、コンクリと塀の隙間から、鮮やかな花を見つけました。調べてみると、ヒメヒオウギ(姫緋扇)でした。

原産は南アフリカのケープ地方で日本には大正時代に、観賞用として入ってきたそうです。今では、野生化して道端に咲いていることも多いそうです。ほかのアヤメ科と同様に四〜六月頃に開花するようです。花の色もピンク、白、緋、青などがあります。

種からですと一年ほどで球根ができますが、開花するのは一年以上かかるようです。多年草ですので、昨年、公園で咲いていた株が今年も同じ場所に、咲いてくれるとうれしいのですが。

花壇ではない、硬いコンクリの隙間に咲いていたので、雑草のようなたくましさを感じられずにはいられません。野鳥が種を運んだのか？な



ぜこんなどころに咲いたのかは謎です。今年の朝ドラの牧野富太郎博士の名言「雑草という草はない」という言葉を思い出しています。(圭)

## ユキノシタ

池の東側、機械室とバス通りの間の小さな花壇にユキノシタが自生しています。半常緑多年草で、本州から九州にかけて湿った岩の上などに自生しています。春に地面に沿って茎を伸ばして、茎の節や先端に芽を付けて繁殖します。五、六月に白い五弁の花をつけます。

ユキノシタの名は、常緑で雪の下でも育つことによると言われますが五弁のうち、下向きに大きな二弁の

花卉を舌に見立てて、雪の舌という説もあります。

また、ユキノシタの葉は民間薬として利用されています。生葉をもらい、火にあぶったりして貼るとしもやけ、凍傷や火傷に効くといいますが、昔の日本人は冬のしもやけのかゆさに苦しんだので、ユキノシタは力強い暮らしの仲間だったのでしょう。漢方では解熱、解毒の生薬として用います。ただし、板橋区の条例で公園の植物の採取は禁止されています。

日さかりの花や涼しき 雪の下  
呑舟 (薫)

